

透析導入時の性差による動脈石灰化と体組成との関連

大迫 希代美:1,2 櫻田 勉:2, 柴垣 有吾:2

1:名古屋第二赤十字病院移植・内分泌外科, 2:聖マリアンナ医科大学腎臓病センター

近年様々な分野で、性差による疫学研究が多数報告されている。特に慢性腎臓病(CKD)患者においては、腎疾患の発生率や末期腎不全への進行度に性差があることは知られている。また、一般の人口とは異なり透析患者において、女性の死亡率は男性と同等ともいわれるが、CVD(心血管疾患)発生に対する報告は女性透析患者において保護的な報告も多い。先行研究では、すべての年齢において男性透析患者と比較して女性透析患者の死亡はCVDよりむしろ非CVD死亡が多いことが報告されている。(Carrero JJ, et al. Clin J Am Soc Nephrol. 2011 Jul;6(7):1722-30.)

我々の過去の報告では保存期CKD患者において、内臓脂肪面積で評価した体脂肪と腎予後との関連を検討した。その結果、75歳未満の男性で高い皮下脂肪面積が腎イベント(透析導入あるいはeGFR30%低下)のリスクを高める一方で、女性では高い内臓脂肪面積が腎イベントのリスクを減少させるという興味深い知見を得た。(Osako K, et al. Ther Apher Dial. 2020 Jul 18.)そこで我々は、慢性腎臓病患者の、肥満が血管石灰化に及ぼす影響に対して性差があるのではないかという仮説を立てた。腹部大動脈石灰化(AAC)は、一般集団そして透析患者におけるCVDの独立した危険因子であることが示されており、肥満(体脂肪)はAACに関連することが報告されている。実際に過去の報告では体脂肪と冠動脈石灰化やAACの関連に性差が生じているとも報告されている(Goldenberg L, et al. Medicine (Baltimore). 2018;97:e13233.)。そこで、当院に透析導入で入院した患者のうち、3カ月以内に腹部CTが施行された患者約300名を対象に、CTにて測定された体脂肪面積とAACとの関連について、性別と年齢の影響を加え、後方視的に検討した。